

## 薪ストーブを楽しんでみませんか？

村井俊治

1992年以來、我が家には薪ストーブがあります。冬の夜だけ薪ストーブで暖を取っています。明るいうちは近所が煙を嫌がるので、夜陰に隠れてストーブを焚いているわけです。カナダで買ってきましたが、苦労物語がありますので最初に披露しましょう。

1992年に国際学会があったとき、終了後カナダの友人宅に家内と3泊させてもらいました。案内された開拓博物館で、開拓時代の家を再現した中で、薪ストーブが印象的でした。そこでカナダの友人に印象を話すと、薪ストーブ屋に連れて行ってくれました。その中で環境に優しいストーブがあり、煙が逆流して二度焚きする構造で、完全燃焼をするというのがありました。わずか8万円です。日本で買えば30万円はしたでしょう。問題は日本への運搬です。重量が100kgもありますから、輸送費は相当になるはずですが、ところがカナダには良い制度があり、重量か、容積かどちらか安い方で輸送ができるのです。聞いてみてビックリ！空輸で1万円なのです。直ぐに注文しました。

帰国したら1週間も経たずに、成田から連絡があり、トラックで届けるけど良いかといいます。輸送費は助手を入れて8万円！100kgもあれば、一人では持ち上げられないので、助手がいるトラックが必要だといいます。さて、ストーブを室内に置くには、壁に耐火タイルを張り、煙突を備える工事が必要でこれが10万円以上かかってしまいました。

苦労物語の末に設置したストーブはすばらしかったです。耐火ガラスを通して見える火は、とても暖かく心が和みます。その暖かさはガスストーブや石油ストーブで得られないまろやかさがあります。問題は薪を如何に用意するかです。最初は苦労しました。古材や廃材はダメです。ニスが塗ってあることが多く、毒ガスが発生して部屋が臭くなります。端材がいいのですが、思うようには手に入りません。造園屋さんが庭の手入れで切断した枝などを有料で捨てに行く「グリーンリサイクルセンター」が、副収入のためにストーブ用の薪を分けてくれることが分かりました。軽トラック一杯で1万円です。以前は切ってなかったので、私がチェーンソーで切らなければならなかったのですが、最近は切り揃えてくれるようになりました。ただし、太いのはマサカリやナタで割るのが男の仕事です。

ストーブの上で豆などコトコト煮たり、ジャコなどをゆっくり煎って粉にしたり、鉄瓶をかけて湯をわかし、お茶を入れたり、ウトウト寝たり、至福の時間が流れます。完全燃焼したあとの灰は畑の肥料に使います。竹の子のアク抜きにも使います。一石二鳥以上のストーブ様様です。薪ストーブはいかがですか？

